

海況・サバ・イワシ・マアジ長期漁海況予報

令和8年7月29日に2026（令和8年）度第1回太平洋いわし類・マアジ・さば類長期漁海況予報（2026年8月～12月の見通し）が発表されましたので、その結果等を元にした本県海域の予報をお知らせします。

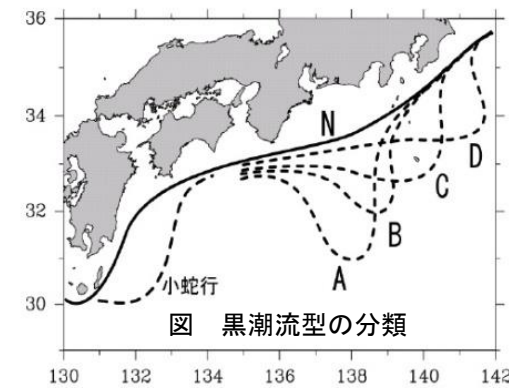
■ 海 況

黒 潮：黒潮は潮岬以西では接岸傾向で推移し、潮岬以东ではN型基調で推移するが、9月までは一時的にB型またはC型となる。

（説明）4月以降はN型基調の流路となり、その後8月下旬時点までN型基調のままとなっている。

沿岸水温：相模湾は、「やや低め」～「やや高め」で推移し、暖水波及時には「やや高め」～「極めて高め」となることがある。伊豆諸島海域は、「やや高め」～「極めて高め」で推移し、C型時には「極めて低め」～「やや低め」となる。

（語句説明）平 年 並：平年値±0.5℃程度
高 め：平年値+1.5℃程度
極めて高め：平年値+2.0℃程度



■ さば類（マサバ、ゴマサバ）

来遊量：不漁であった前年並みの低水準で推移する。

（説明）神奈川県沿岸でのマサバの漁獲量は引き続き低水準で推移しています。資源状態も急速に悪化しており、黒潮大蛇行期には続流の北偏が南下を妨げていましたが、これが解消した2026年も本県沿岸への供給源である伊豆諸島海域への産卵のための南下はほとんどなく、1～6月のたもすくい網でマサバ主体の漁場形成は見られませんでした。一方のゴマサバは資源量自体が低レベルで推移しており、伊豆諸島海域でも、相模湾沿岸の定置網でも漁獲量は少なくなっています。

これらのことから、昨年に引き続き東京湾～相模湾に8月以降来遊するマサバ・ゴマサバが大きく増加する要素は見当たらず、厳しい予測となりました。

2～6月の伊豆諸島周辺で「江の島丸」が行った調査から、魚体サイズはマサバ：尾叉長33～35cm（体重350～650g）、ゴマサバ：33～36cm（400～650g）が主体となるでしょう。



■ マイワシ

来遊量：前年を下回る。

（説明）マイワシ太平洋系群の資源量が2010年以降増加していましたが、2024年から減少に転じおり、神奈川県沿岸でも2022年をピークに減少しています。例年、上半期1～6月の漁獲量は多い傾向ですが、下半期7～12月の漁獲の主体はヒラゴ～小羽サイズであり、漁獲量は低い傾向です。

本県における2026年1～6月の主要定置網漁獲量（310トン）は前年の56%、平年（過去5年平均）の23%と減少し、近年の傾向から8～12月の漁獲量は前年を下回ると考えられます。



■ カタクチイワシ

来遊量：前年を下回る。

（説明）カタクチイワシ太平洋系群の資源量は、2004年以降減少していましたが、2019年以降は増加傾向にあります。魚体サイズは体長12cm以上の大型成魚は少なく、未成魚～小型成魚が主体となっています。

2026年1～6月の主要定置網漁獲量（30トン）は前年の59%、平年（過去5年平均）の19%と減少し、過去5年間の8～12月漁獲量は数トンのレベルに留まっていることから、今漁期の漁獲量も前年を下回ると考えられます。



■ マアジ

来遊量：前年を下回る。

（説明）相模湾（西湘）定置網の2026年上半期の漁獲量は、豊漁であった2025年の1.2倍、平年（過去5年平均）の2倍でした。そのうち銘柄ジンド（2026年産まれの当歳魚）は、前年並みの漁獲量で近年では高い水準でした。

西湘定置網のマアジの漁況について、上半期の銘柄ジンド漁獲量と下半期のマアジ漁獲量には正の関係がみられます。

上半期の銘柄ジンドの漁獲量は高い水準でしたが、2025年下半期は、当歳魚、1歳魚に加え、2歳魚以上も例年を上回る漁獲量でした。2026年下半期は、2歳魚以上の漁獲量が2025年を下回ると考えられるため、銘柄ジンド、小アジを主体に前年を下回ることが予測されます。

